

2022年度沖縄地区国公立大学入試結果（志願者数・入試難易度）

河合塾入試結果調査より

【沖縄県立看護大】

Table with columns: 学部, 学科, 募集人員, 志願者数, 実質倍率, ポーダー得点率, 2次偏差値, 共通科目科目数, 2次科目数. Rows include 看護 <前期計> and 看護 <後期計>.

【沖縄県立芸術大】

Table with columns: 学部, 学科, 募集人員, 志願者数, 実質倍率, ポーダー得点率, 2次偏差値, 共通科目科目数, 2次科目数. Rows include 美術工芸 美術-絵画, 美術工芸 美術-彫刻, etc.

【沖縄県立芸術大】

Table with columns: 学部, 学科, 募集人員, 志願者数, 実質倍率, ポーダー得点率, 2次偏差値, 共通科目科目数, 2次科目数. Rows include 音楽 音楽-音楽表現-声楽, 音楽 音楽-音楽表現-ピアノ, etc.

【名桜大】

Table with columns: 学部, 学科, 募集人員, 志願者数, 実質倍率, ポーダー得点率, 2次偏差値, 共通科目科目数, 2次科目数. Rows include 国際 国際B方式, 国際 国際A方式, etc.

【琉球大】

Large table with columns: 学部, 学科, 募集人員, 志願者数, 実質倍率, ポーダー得点率, 2次偏差値, 共通科目科目数, 2次科目数. Rows include 人文社会 国際法政, 人文社会 人間社会, etc.

大学全体の志願者数は前期2,677人(前年比90%)と減少、一方、後期は2,486人(同117%)と増加した。前期では、文系学部では人文社会学部が308人(前年比83%)と減少し、国際地域創造学部が夜間主を中心に605人(前年比111%)と増加した。一方、昼間主の3区分中、国際的思考系-前(2次試験が英語)と論理的思考系-前(2次試験が小論文)の2つの区分で共通テストのポーダー得点率がそれぞれ58%となって難化した。一方、理系学部の中では、理学部が320人(前年比92%)、工学部が498人(同76%)、農学部は215人(同79%)とそれぞれ減少した。文系学部は主に県内の受験生が地元にとどまったため、トータルとしては前年並みの志願動向となったが、理系学部の減少は2021年度から2年連続で他県からの志願者が減少していることがその原因である。結果として理学部の2区分と工学部でポーダーラインがダウンした。一方、医学科では前年のポーダーラインのダウンを好感してか、前期の志願者が340人(前年比108%)と2年連続で増加した。しかしながら、共通テストのポーダー得点率は75%(前年実績81%)で難易度に変化はなかった。後期では志願者が前年比で117%増加したが、これは、2021年度入試で理系学部の志願者が大幅減少し、大学全体として後期日程の志願者数が前年比83%と減少したことの影響である。とくに、地元の受験生が後期の押さえとして多数出願した。その結果、2022年度入試では後期全体で19募集区分中、前年に易化した学科を中心に8区分でポーダーラインがアップした。

# 福岡教育大学

前

教育

初等教育教員養成

200/210

60分

【小, 調】

「1 解答は, すべて別紙解答紙の指定の箇所に横書きで記入すること

2 解答紙には, かならず受験番号を記入すること」

◎子ども観の変更に伴い失われた力の育成

つぎの文章を読み, あとの問いに答えなさい。

かつては日本でも, 子どもが幼少時から家業や家事, 子守りなどの手伝いをし, 働き手の一人でした。それが, もう子どもの労働や稼ぎをあてにする必要はなくなり, 子どもはもっぱら親の心を満足させる存在, 親の愛情の対象となりました。これは, 子どもの身にとって大きな変化です。過酷な労働などまったく無縁の生活となり, 家では手伝う余地もなくもっぱら手厚い保護を受ける身になったのです。それどころか, 子どもの存在そのものが, 親に精神的・心理的な満足を与える価値ある存在とされているのです。

このような子どもの生活を, 戦前・敗戦直後の子ども時代を経験している世代の人々は, 「恵まれている」とみています。貧しく厳しい子ども時代を送らざるを得なかった世代の人々が, 子どもにはそのようなつらい経験をさせたくない, 幸せな子ども時代を送りたいと願って努力しての今日といえるでしょう。その限りでは成功し, 「恵まれた」子ども時代をもたらしたといえるかも知れません。

しかし, 労働や稼ぎを求められず, ひたすら精神的・心理的価値が期待されている①ことは, 当の子どもにとって本当に恵まれたことでしょうか? 果たして幸せなことでしょうか? 答えはノーです。その理由は, 子どもの命がほぼ完全に親の手のうちに入ってしまった, 子どもは親の意志・決断の産物となった, その親による子どもへの教育的営為は多くの問題と限界をはらむことになったことにあります。

幼いときから勉強はおろか遊ぶどころではなく働くことを余儀なくされ, しかもその稼ぎは親や企業の懐に入ってしまう, そのような貧しい国々の子どもを考えると, その限りでは日本の子どもたちは幸せでしょう。けれど

も, 子どもたちが働く必要も機会も経験も失ったこと(注, 自力で「やった!」 “できた” と自分の有能さや達成感, さらに自尊などを味わう機会を失ったこと。これは, 子どもの発達にとって大きな損失です。

1930年代初頭の大恐慌時代, 親の失業や家業の倒産などによって没落した家庭の子どもたちは, それまで親に庇護された豊かな生活がすっかり崩壊してしまいました。その子どもたちのその後の成長を追った研究は, 過酷な環境の変化が子どもたちに必ずしもマイナスとはなっておらず, むしろ自分の存在や力に自信や自負の念を抱き強い達成への動機が育っていたことを明らかにしています。家庭の没落に出会った後, 子どもたちはやむなく働きに出たり家事や子守りを引き受けることになりました。それは, それまでの手厚く庇護されてきた身にはつらい経験でしたが, 自分のわずかな稼ぎや家事をしたことが親の助けになり親を喜ばせる初めての経験でした。自分のでしたことが親の力になれるとの経験は, 自信や自尊心をもたらしただばかりか, それまで親から与えられ, してもらえばかりだった自分が, 他者のために役立つという喜びも初めて味わったのです。

他者への共感と援助する行動は, 幼いときから家業や家事を手伝ったり弟妹の世話をするなど, 他の人のために働く機会のある社会の子どもたちに強くみられます。自分が他人の役に立ち喜んでもらえる経験が, 他者を共感的に理解し, 必要な手を差し伸べる力を養成し発達させるからです。

日本の子どもたちは, 豊かで便利な生活のなかで親に何でもしてもらい不自由なく与えられています。自分でする必要は何もない, 自分の勉強や遊びだけでよい, そのような境遇で子どもが育つことは, 前述のような貴重な発達の場を失っている②こと。それは, 大変不幸なことではないでしょうか。

出典: 「子どもという価値 少子化時代の女性の心理」 柏木恵子(著), 2001年, 中央公論新社, pp.172-174(設問の都合により見出しを省略し, 本文の一部を改変している。)

(問1) 下線部①について, 筆者はなぜ「答えはノー」と考えているのですか。100字以内で説明しなさい。

(問2) 下線部②について, 失われた「貴重な発達の場」において養われてきた力を, 現代の子どもたちにも育んでいくために, 学校教育ではどのようなことができると思えますか。あなたの考えを300字以上400字以内で書きなさい。